

令和7年10月10日

日本脳炎に対する注意喚起と予防接種の推奨について

1 概要

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、日本脳炎ウイルスに感染したブタを吸血した蚊によって媒介され、ヒトに感染します。

県では日本脳炎の流行予測を目的として、6月から9月にかけてブタの日本脳炎ウイルス抗体検査を行っており、今般、調査対象のブタから日本脳炎ウイルスに最近感染したことを示す抗体が検出されました。（2025年現在、大分県内において患者発生届の届出はありません。）

また、長崎県内で日本脳炎患者が10月7日に1例確認されています。

蚊の活動時期は、秋ごろまで続きますので、引き続き、日本脳炎の感染予防対策をお願いします。

予防対策の中心は、ウイルスを持つ蚊（コガタアカイエカ）の対策とワクチンの接種となります。予防接種は感染対策として重要であり、対象者の方は、定期接種である日本脳炎ワクチンの積極的な接種をお願いします。また、日本脳炎の予防接種を受けていない方、特に乳幼児や高齢者は蚊に刺されないようにするなどの注意が必要です。

2 大分県と全国の日本脳炎患者発生件数（人）

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 |
|----------------|-------|-------|-------|-----------------|-----------------|
| 大分県 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 ^{*2} |
| 全国 (大分県を含む) | 3 | 5 | 6 | 9 ^{*1} | 1 ^{*2} |

*1 未確定値、*2 2025年10月10日時点(速報値)

3 日本脳炎とは（感染経路及び症状）

- ・日本脳炎は、蚊（コガタアカイエカ）が媒介するウイルスによる感染症です。日本では西日本で多く、蚊の発生時期である夏から秋にかけて患者が発生します。
- ・感染しているブタを吸血した蚊がヒトを吸血することにより感染します。
- ・ヒトからヒトへの感染はなく、感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。

潜伏期：6～16日間

発病割合：100～1,000人に1人程度であり、大多数は不顕性感染（無症状）

典型的な症状：数日間の高熱、頭痛、悪心、おう吐、意識障害、けいれん発作など

※このような症状があれば早めに医療機関を受診してください。

4 感染予防の方法について

ウイルスを持つ蚊（コガタアカイエカ）の対策と予防接種があります。

コガタアカイエカは日没後に活動が活発になるといわれています。以下の点に注意して、蚊に刺されない工夫が必要です。

【蚊の対策】

- ・ 戸外へ出かける必要がある時は、できる限り長袖・長ズボンを身につけること。
- ・ 露出している皮膚へ虫よけスプレーなどを使用すること。
- ・ 蚊が屋内に侵入しないように網戸を使用し、夜間の窓や戸の開閉を少なくすること。
- ・ 水たまりをなくすなど蚊の発生が起りにくい環境づくりに心がけること。

【予防接種】

日本脳炎ワクチンを接種することでリスクを 75～95%軽減することができると報告されています。定期の予防接種は各市町村が実施主体となっていますので、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。

※ 予防接種法に基づく日本脳炎の定期の予防接種は、第1期と第2期にあわせて計4回の接種を行います。

| 対象者 | | | 回数 | 接種間隔 |
|-------|-------|---------------------------------------|----|-------------------------------------|
| 第1期接種 | 第1期初回 | 生後6か月から生後90か月に至るまでの間にある者 (標準として3歳) | 2回 | 6日以上(標準的には6日から28日まで) |
| | 第1期追加 | 生後6か月から生後90か月に至るまでの間にある者 (標準として4歳) | 1回 | 初回接種終了から6月以上 (標準的におおむね1年を経過した時期) |
| 第2期接種 | 第2期 | 9歳以上13歳未満の者 (標準として9歳) | 1回 | |

<参考>

日本脳炎患者の発生について (長崎県ホームページ)

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/750757/index.html>

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課
感染症対策班 佐藤、北川
電話:097-506-2863